

損害保険業のグローバル化への対応と課題

三井住友海上火災保険 鈴木 衆吾

1. はじめに

近年、日本の保険会社による海外進出やM&Aが活発に行われ、グローバル化が加速している。本報告では、損害保険業のグローバル化の歴史を踏まえ、グローバル化における課題と取組について、実務に即して考察する。

2. 損害保険業のグローバル化の歴史

日本の損害保険会社の海外進出の歴史は長い。

例えば、三井住友海上社は1924年に英国に事務所を設置しており、海外事業には90年以上の歴史がある。また、今年度は、南アフリカに駐在員事務所を開設する等、現在、世界42カ国・地域で事業を展開している。

1980年代まで、日本の損害保険会社の海外進出の主な目的は、日系顧客企業の海外事業展開先でのリスクを引き受けることであった。1990年代に入り、アジア等新興国の経済成長に伴う海外ローカル市場の拡大を背景として、損害保険会社は、現地企業および個人のリスク引受も行うようになった。

2000年代以降、国内市場の伸び悩み等を背景に、M&A等の活用により本格的に海外ローカル市場への進出が行われるようになり、ポートフォリオ分散の観点からも海外事業の拡大が推進されるようになった。現在、大手3グループ¹ともに、海外事業を成長領域として捉えており、今後も海外事業のウェイトを更に高めていくとしている。

3. 損害保険会社をめぐる環境

近年、国際監督規制・資本規制において、グローバルに統一的な監督基準や資本要件策定の動き²がある他、監督当局も、監督カレッジ³等を通じて海外監督当局との連携を強

¹ MS&AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス、損保ジャパン日本興亜ホールディングス。

² ComFrame (IAIS (保険監督者国際機構) が策定を目指す国際的に活動する保険会社グループに対する定量的・定性的な規制の枠組み) やソルベンシーII 等。

³ グローバルに活動する大手主要金融機関に対する各国監督機関の連携・協力による国際的な共同監視体制。

化している。また、資本の十分性（ソルベンシー水準）と資本の効率性（ROE）のバランスをどのように取っていくかも重要である。

4. 実務上の課題と三井住友海上社の取組

(1) 実務上の課題

このような環境下、損害保険会社の海外事業における主な課題としては、

- ①海外事業のガバナンス態勢の強化、
- ②ERM⁴推進、
- ③グローバル人材の育成・確保等

が挙げられる。人材に関して、一部の国・地域においては、Fit & Proper 基準⁵およびその運用が強化される流れも見られており、グローバル人材育成の重要性は益々高まっている。

(2) 三井住友海上社のグローバル人材育成取組

各社創意工夫を凝らして課題に取り組んでいるが、①ガバナンス態勢強化、②ERM推進の実現に繋がる「グローバル人材の育成・確保」は、大手3グループともに特に重視している。三井住友海上社では、日本人社員に対し、グローバル人材入門講座、海外研修生制度等の様々な育成取組を行っている。また、約8千人の海外雇用社員に対しては、経営理念・ビジョン・戦略をいかに共有するかが特に重要と考えており、中長期にわたる幹部候補者の本社への出向制度、短期本社研修制度といった様々なプログラムを導入し、育成強化を図っている。

⁴ Enterprise Risk Management（統合的リスク管理）。

⁵ 保険会社における取締役等重要ポジションに関する法令に基づく資質規定。